

忘れていませんか、水子供養

蓮華山 普門寺



あの時産まれていたら……



夫婦、男性、女性が、親として お腹の中の赤ち

ゃんをやむを得ず経済的理由や望まなかった事により医学的な処置をしたり、死産、流産、早産した場合その赤ちゃんを『水子(みずこ)』といいます。こういった経験をお持ちの方は、いま、どんなお気持ちでしょう。あの時産まれて育てていたならば今は



何歳になるでしょうか？

たとえ、お腹の中といっても生命があったわけですから、この世の光も観ず、春夏秋冬も知らず闇の世界に落ちていったのです。その“いのち”は宙に浮いて迷っているかもしれません。水子さんは、もとの真っ暗闇の世界に落ち、苦しきのあまり“救い”を求めているのではないのでしょうか、仏法ではその声をご家庭のどうにも解決のできない悩みや苦しみの形になって現れることがあるとされています。今となっては現世に帰ってくるものではありません。

「許してネ。あの時ごめんなさい……」お詫びをしよう



私 たちは今日の生活の基盤を作ってくれたご先祖様に

対して、報恩感謝の気持ちをもって、亡き人の霊を弔うことを、親から子と代々教えられてきました。悲しい時も、うれしいにつけ、苦しいにつけても、お仏壇にお花、お燈明をあげ、或いは彼岸、お盆、命日にはお墓にお参りしてご報告をし、ご冥福をお祈りしてきました。ところが、ご先祖のお供養をするなかにあって水子の(中絶・流産・死産した胎児)の供養が忘れられておるのではないのでしょうか？ たとえ2、3ヶ月の胎児であっても、人ひとりの命に変わりはありません。

あなたの命も、今日ある家庭生活も、闇に葬り去られた水子の犠牲の上になりたっております。やっとよい因



縁が巡り来て、「今度は私が陽の目をみることが出来る、親の手に抱かれることができる」と喜んでいた矢先です。ある日、突然に暗闇の世界に突き落とされた様なものです。

しかも一番信頼していたお母さんによって。このときに、水子が泣くことが出来たなら、どんなに悲しい声で泣いたことでしょうか。もしも、呼ぶことができたなら、お父さん、お母さん『やめて、やめて、生きたいよ』と幾度も声を大にして呼んだことでしょうか。心の耳を澄ませれば、この声なき声が聞こえるはずです。

ましてや人の命、我が子の命です。合法的にあなたの血肉を分けた子供を葬ったのです。淋しいことです。悲しいことです。恐ろしいことです。いくらなんでも……

親として「許してね。ごめんなさいね……」せめてものお詫びをすることです。繰り返し繰り返し。そして、「お地藏様に導かれて極楽で地藏さんと観音さんの処へ行って遊んでね」と心から呼びかけることをしましょう。もし自分が水子だったら……今はどこに……



どうすればいいのでしょうか？



それは水子さんにとっては供養と御施餓鬼供

養なのです。そして毎日のご家庭でのご仏壇で手を合わせる事なのです。このような水子さんに対してはお父さん、お母さんが心から謝り私達は今生かされている事に感謝しなくてはなりません。どうかその水子さんの霊を救ってあげてください。普門寺では、水子の霊を供養する地藏菩薩と観世音菩薩を境内

に安置してあります。その守護のもとに地藏尊水子位牌(いはい)を本堂に安置し守本尊のご加護と水子地藏尊のお導きにより成仏を願います。又、観音菩薩のお慈悲とあの優しさにより、迷える水子さんの霊を安らかに成仏させるための回向(えこう)を行い(永代供養)いたします

供養・除霊・お祓い・厄除・家相・地鎮祭

蓮華山 普門寺

〒992-1123 米沢市万世町桑山258

TEL&FAX 0238-28-4052

Eメール fumonzi@sea.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/>

